

Contents	
地域づくりクローズアップ	2
地域づくり協議会だより	4
地域づくり活動事業成果発表会	6
地域づくり活動事業公開認定会	8
投稿ひろば	9
地域おこし協力隊だより	12



JULY.2016 <http://www.town.koge.lg.jp>

地域参加型の音楽活動で地域を活性化

こうげ音楽倶楽部



こうげはまる。

地域おこし協力隊だより No.1

～都会と田舎をつなぐ仲人～

1年半前に石川県から移住してきた若岡拓也と申します。

「今日もはまっちょるなあ」と言われて、「はい、頑張ってます」と笑顔で答えられる程度には、言葉も暮らしも馴染んできました。

一番はまっちょるのは仕事です。有田にある「田舎暮らし研究交流サロン」で、都市部から移住を希望する人に町の魅力や地域の方々を紹介したり、インターネットで町や空き家の情報を発信したり。あれこれとやっています。

研究サロンは町内からの来客も含めて年間で1200人が訪れる町の施設です。町外からのお客さんに、町内の方を紹介する仲人(あるいはおせっかいな親戚のおじさん)の役割でもあります。

町外のお客さんを連れて行くと、町内の方から「なんでこんな田舎がいいん?」と尋ねられることも。1度や2度ではなく、たびたびです。移住を考えるには、良さがあるのですが、ずっと住んでいるとその良さに気づきにくくなります。

例えばホテル。町内の川沿いなら簡単に見られます。「ゆいきらら」の周辺に行くと、森が丸ごと光って見えた。初めて見る幻想的な風景に、三十路をすぎて叫んでしまったほどです。が、近くにいた地元の方にしてみれば、「今年も出たなあ」と涼しい顔でした。自分にとっての非日常は誰かにとっての日常です。

また、その逆もありえます。代々受け継がれてきた棚田の風景、その場で口に入れられる野草、自然の中で過ごすゆったりとした時間。都会に住んでいても手に入れないものばかり、上毛町の二重丸です。

都会的なものも素敵かもしれませんが、都会に住む人にとっては、僕たちの普段通りの暮らしが魅力的に映る、というのはお客さんと接していて感じることです。上毛町は二重丸です。だからこそ、身近にあるものを手放してはいけません。そう思います。

また、個人的なことですが、はまっちょるのは走ることです。海外の砂漠やジャングル、山地を舞台にしたランニング大会に出場しています。5月にはアフリカの砂漠を走る大会で、年代別優勝を果たしました。ランニングの経験を生かした町おこしの取り組みとして、11月には町役場主催で、町内の山を走るトレイルランニング大会を開催します。出場、ボランティアなど様々な形での関わり方をお待ちしております。



上毛のいぶき

夏 vol.29

編集・発行 / 上毛町役場企画情報課
〒871-0992 福岡県上毛町大字垂水1321-1
TEL 0979-72-3111 FAX 0979-72-4664

編集対応型植物インキを使用しております。



上毛町
田舎暮らし
研究交流
サロン



小林未歩

東京出身の33歳。絵を描いたり、ものを作ったりするのが大好きなイラストレーター・デザイナー。6月から上毛町民になりました! さんまアレルギーです。

若岡拓也

石川出身、32歳、元新聞記者。特技は走ること。町内各所をランニングしています。小鉢がいっぱい付いてくる道の駅「しんよしみ」の定食が好きです。



今号の裏表紙は地域おこし協力隊員の登場です。町に協力隊を迎えては4年。この春、初代西塔隊員は3年の任期を終え起業、昨年7月からは若岡隊員が、この6月には小林隊員が着任し、田舎暮らし研究交流サロンに勤務しています。活動の様子を隊員自身の筆で皆さんに紹介していきます。(企画情報課 林彦彦)